

# 東

二年 筆順 画数 8  
オフトウ 申東  
クン ひがし

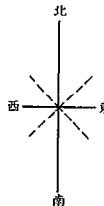
成り立ち



木のあいだにお日さまが見えるかたちをあらわした字で、お日さまが出たばかりのすがたをあらわしたもので。お日さまの出るほうがくの「ひがし」をあらわしました。

「ひがし」ということばは、むかしは「ひんがし」といいましたが、それは「日向かし」ということばからへんかしたものです。「日が出るほうがく」といういみからつくられたことばです。

「東京」は「京都」の「東」にあるので、東の京都といういみで名づけられました。



# 答

二年 画数 12  
筆順 次々 答  
オントウ  
クン こたえ  
こたえ  
成り立ち



「計算」のいみをあらわした「竹」と、「合(2年 137)」とをくみあわせてつくった字。「計算が合う」といういみのことばで、「こたえ」ということばをあらわした字です。「こたえ」はいつも「合う」ことがたいせつ」ですね。

「竹簡（書簡）」の意味の「竹」と「合」との会意・形声字で、相手の書簡に対して「返答する書簡」を表した字であるが、二年生の子供には理解しにくいので、「竹」を「算（2年 145）」の意味に解した。」

△京都より東方にあるちほうを東国といいます。京都がながいあいだ都だったからです。

△日本のことを極東というのは、ヨーロッパから見て東のはてにあるからです。

△東の方。東の方がく

△東国（京都が都だったころ、京都より東の方の国々とをいいました。）

△東海（東の方の海。また、むかし「東海道」とよばれた東海地方のこと。）

△東洋（洋は「ひろい海」。東のひろい海にうかぶ国々といういみで、日本、中国、インドなどのアジアの国々のことをいいます。）

△極東（極は「はて」。「東のはて」ということば。ヨーロッパの人たちが日本や中国などの国々のことをいつたものです。）

△近東（ヨーロッパに近い、トルコ、シリヤなどをさしていつたもの。近東と極東のあいだにあるインド、イラン、イラクなどの国々を「中東」といいます。）

△わたしは人と質問するが手です。だから、自問自答ばかりしていて、即答することなどとてもできません。

△問答（質問とそれにたいする返答。話し合うことがあります。）

△返答（返事の答え。質間に応じてする答え）

△応答（返事と同じいみにつかいりますが、「よびかけに応じてする返事」のいみにもつかいます。）

△自問自答（自分で自分に質問し、またそれに答えるということで、頭のなかだけで問答をすることです。）

△即答（即座に答えるということばで、質問されてすぐさまそれに答えることをいいます。）

△答礼（あい手の礼に答えてする礼。また、あい手の礼に答えて礼をかえすこと。）

△答弁（質間にたいして答えることば。また、質問にたいしていいひらきをすること。）

△答辞（式などでのべられたおいわいのことばにたいする「答えることば」のことといいます。）